

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果

岬町教育委員会

(1) 調査の目的	(3) 調査内容	【今年度調査の特徴】
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。	①教科に関する調査 ・小学校等【国語・算数・理科】 ・中学校等【国語・数学・理科】 ※英語（中学校等）は3年に1度程度の実施のため実施せず	※今年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施 ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるように、新型コロナウイルス感染症や非常変災等による後日実施を設定。期間は4月20日（水）以降5月20日（金）までの約1か月間で実施
(2) 対象学年	②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）	
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年【岬町：実施校数・児童数 3校86人】	(4) 実施日 令和4年4月19日（火）	
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年【岬町：実施校数・生徒数 1校90人】		

各教科の状況		
小学校 国語	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	話 す こ と・聞 く こ と	57.0
	書 く こ と	41.3
	読 む こ と	64.8
	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.9
小学校 算 数	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	数 と 計 算	64.7
	図 形	60.5
	変 化 と 関 係	46.5
	デ ー タ の 活 用	62.0
小学校 理 科	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	エ ネ ル ギ ー	54.4
	粒 子	57.7
	生 命	73.7
	地 球	65.1
中学校 国語	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	話 す こ と・聞 く こ と	61.9
	書 く こ と	42.2
	読 む こ と	72.2
	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.1
中学校 数 学	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	数 と 式	72.0
	図 形	44.4
	関 数	49.3
	デ ー タ の 活 用	60.0
中学校 理 科	領 域 等	岬町の平均正答率（％）
	エ ネ ル ギ ー	43.5
	粒 子	57.6
	生 命	63.6
	地 球	41.1

【小学校国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項等」について、話し合う場面での言葉の使い方については、概ねできている。

一方、「話すこと・聞くこと」では互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られる。また、「書くこと」では、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書くことに課題が見られる。

【小学校算数】

「数と計算」領域は、概ねできている。特に整数の乗法の計算をすることについては相当数の児童ができています。（正答率 90％以上）

一方、「変化と関係」領域に課題が見られ、割合について、日常の場面に対応させながら理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることや比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を使って記述することに課題が見られる。

【小学校理科】

「生命」を柱とする領域は、概ねできている。特に問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決の道筋を構想することについては相当数の児童ができています。（正答率 90％以上）

一方、基礎的・基本的な知識・技能の習得や「エネルギー」を柱とする領域には課題がある。また、全般に実験で得た結果を、問題の視点や他者の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことやその内容を記述することにも課題が見られる。

【中学校国語】

「読むこと」について、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することについては概ねできている。

一方、「書くこと」では自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや必要な情報を資料から抜き出し引用すること、複数の条件にしたがって書くことにも課題が見られる。また、「我が国の言語文化に関する事項」について、知識及び技能の習得に課題が見られる。

【中学校数学】

「数と式」について、自然数を素数の積で表すこと、連立二元一次方程式を解くことについては相当数の生徒ができています。

一方、「図形」の領域では、特に筋道を立てて考え、事柄が成り立つまたは、成り立つとは限らない理由を考え、説明することに課題がある。また、「関数」領域では、一次関数の変化の割合の意味を理解することや日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。

【中学校理科】

「生命」を柱とする領域について、観察結果と調べた内容を、与えられた条件と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することについては相当数の生徒ができています。

一方、全般に、実験の計画を検討し、改善策を考えたり、実験・観察等から見出した規則性や関係性を日常生活や社会と関連付けたりすることに課題が見られた。また、「地球」を柱とする領域について天気の変化を分析、解釈し説明することにも課題が見られた。

